

# 探訪 北の風景 ⑬

## スポーツ合宿誘致 網走市・呼人

青木和弘

美しい芝のグラウンドに、ラグビー国内トップリーグの強豪、東芝ブレイブ・ルーパーズの選手たちの姿があった。8月上旬のこの日、網走市の天気は曇り。最高気温は20・2度で風は弱く練習には最適だ。東芝チームの根拠地、東京都府中市の最高気温は36・4度。屋外練習は無理な猛暑日がつづいていた。

網走スポーツ・トレーニングフィールドは、網走湖を見下ろす自然林の中にある。広さは東京ドーム9個分の41・4ヘクタール。ラグビーコートが7面とれるほか、野球場やテニスコートなどさまざまな施設がある。

本年、網走市で合宿を行うラグビーチームは、

社会人のトップチームが7つ、大学が5つの合計12チーム748人。社会人は7月末から、大学は8月中旬から10日間ほどの日程だ。

ラグビー合宿が網走市内で始まったのは1988年、法政大学ラグビー部が最初だ。まだ市内に土のグラウンドが1つしかなかった。市は芝のグラウンドを90年に2面、92年に4面整備し、92年から94年にかけてラグビー日本代表の合宿を誘致した。気候や施設、受け入れ体制の充実などが評価され、その後、急激に合宿が増加した。

市は、市役所内のあらゆる人脈を利用してスポーツ合宿の誘致に取り組んだ。施設使用料を無料にし、女満別空港への送迎にも力を入れた。その成果は陸上競技にも現れた。資生堂、コニカミノルタ、三井住友海上など、今年は強豪22団体551人が合宿する。こうした実績が認められ、市営陸上競技場は2013年、JOC認定競技別強化センターの認定を受けた。

スポーツ合宿に必要な条件は、施設が正式な競技ができる仕様で維持管理が適切に行われていること。アスリートに必要な食事の提供ができること（1日3食のほか、早朝練習には軽食なども必要）。大量の洗濯ができること。練習場への人や荷物の輸送手配。練習会場の利用申し込み手続きが簡単なこと。練習試合を行える相手チームがあること——などだという。



ラグビー合宿の歓迎看板。今年から明治大学も参加

網走は観光地で、宿泊施設の収容能力は充実していた。しかし、合宿誘致を始めた当時は、景気が良く、合宿受け入れへの関心は低かった。でも、旅行形態が団体旅行から個人旅行に変化し、一度に大量の集客が見込めなくなってくると、数十人の団体が5〜10泊する合宿利用の魅力が高まり、地元のホテルや旅館も協力的になった。今は、夏は合宿、冬は流水という入り込みの核になっっている。気になる経済効果だが、合宿1日1人あたりの費用は、宿泊費や交通費などを含め1万7300円と二〇〇一年に北見市が試算している。「その後、調査はしていないが、少し増えている」と同市のスポーツ合宿担当者は話している。



網走スポーツ・トレーニングフィールドで練習するラグビー東芝ブレイブ・ルースパス

合宿の受け入れには、市民の理解が欠かせない。市民への還元には市もチームも気を配る。ラグビー東芝チームは、8月8日、神戸製鋼ゴベルコステイラーズと合同で、市内の小学生を対象にしたラグビー教室を実施し、子どもたちと交流を深めた。一流の選手たちの指導を受けた子どもたちが得るものは計り知れない。

また毎年1回、市スポーツ合宿実行委の主催で、社会人ラグビートップリーグ10チームによる「網走ラグビーフェスティバル」を開き、練習試合5試合を無料で公開している。13回目の本年は8月8日に開催、ラグビーファン700人が白熱した試合を観戦した。合宿誘致から28年、網走市呼人にあるトレーニングフィールドが、まさに「人を呼ぶ」施設になっていた。



**郷土の一品** 網走のご当地グルメに網走ザンギ井や網走モヨロ鍋があるが、私のお勧めは、お好み焼き店「八点鐘」（網走市南3条西1丁目、電話0152・43・1146）の「網走焼きちゃんぽん」（880円）。ホタテや名産の揚げかまぼこ、シジミ、イカ、野菜などが入り、スープをかけながら鉄板で焼きあげたチャンポンだ。それと、忘れてはならないのが「揚げかまぼこ」。市内のかまぼこ店では、選んだ種をその場で揚げてくれる。熱々の揚げかまぼこは、少し甘い味付けで、おやつにも、ご飯のおかずにも、酒の肴としてもいける。